

今後の中学校給食における基本的な考え方

令和3年3月24日 神戸市教育委員会会議決定

教育委員会では、成長期にある中学生に栄養バランスのとれた安全安心な給食を提供することで、食育の推進や心身の健やかな成長を図ることを目的として、平成25年3月22日に「神戸市立中学校給食実施方針」を決定しました。

この方針に基づき、全員喫食を基本とするとともに、家庭弁当を希望する保護者や生徒の意見も踏まえ、家庭弁当の持参も可として、デリバリーランチボックス方式による中学校給食を平成26年11月から順次実施し、平成29年2月から全校で実施しています。

その後、中学校給食に関しては、令和元年度の全生徒及び保護者へのアンケート調査において、生徒・保護者ともに「温かい給食」を希望する意見が最も多く、令和2年度に実施した温かい給食のモデル実施においても、生徒からの好意的な意見が多数でした。

また、同アンケート調査では、「家庭弁当を持参させたい」という保護者の意見は少数となっており、共働き世帯の増加などを背景として、中学校給食の導入時に比べ、「全員喫食制」に対する保護者ニーズも高まっているのではないかと考えられます。

これらのアンケート調査やモデル実施の結果、有識者や保護者等で構成する神戸市学校給食委員会での意見を踏まえ、下記の基本的な考え方をもとに、中学校給食の充実に取り組んでいくこととします。

記

1. 全員喫食について

家庭弁当の持参を可としている現在の運用を改め、栄養バランスに配慮した給食を生徒全員に提供する「全員喫食制」に移行し、食育の一層の推進や家庭弁当の持参にかかる負担軽減を図る。

2. 提供方法について

生徒や保護者のニーズを踏まえ、現在のランチボックス方式を改め、温かい給食の提供や量の調整に対応できる方式に移行する。

3. 実施方式について

1. 2の方向性を踏まえて、安全安心で温かい給食を安定的に提供できることを前提として、費用対効果や効率性などの観点から最適な方式を検討する。

なお、一つの方式に拘らず、学校施設の状況や地域特性なども踏まえたうえで、複数の方式を組み合わせることも含めて柔軟に検討する。

4. 移行時期について

この基本的な考え方をもとに具体的な調査検討に取り組み、令和3年の秋頃までに「全員喫食制への移行に向けた基本方針」を策定し、早期の移行を目指す。

以上